



Looking Inside the Outsiders

タランティーノ最新作で夢の初共演!

ブラピ&ディカプリオ

「この映画はハリウッドへのラブレター」

クエンティン・タランティーノ監督の最新作にして、レオナルド・ディカプリオとブラッド・ピットの豪華初共演となる映画「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド」が今夏日本に上陸! 今月号のスペシャル・インタビューでは、ダブル主演を務めた2人が、タランティーノ監督やこの映画への思い、初共演で抱いた互いの感想などを語った記者会見の様をお伝えする。



■レオナルド・ディカプリオ

1974年、カリフォルニア州ロサンゼルス生まれ。1993年、『ギルバート・グレイブ』で弱冠19歳にしてアカデミー助演男優賞ノミネート。97年、『タイタニック』のメガヒットで一躍ハリウッドの寵児に。2015年の『レヴェナント：蘇えりし者』でアカデミー賞、ゴールデングローブ賞、全米映画俳優組合賞などで主演男優賞を総なめにした。



■ブラッド・ピット

1963年、オクラホマ州シャウニー生まれ。代表作に『セブン』、『ファイトクラブ』、『トロイ』、『マネーボール』など多数。プロデューサーとしての顔も持ち、俳優・プロデューサーともに3度のアカデミー賞ノミネート経験を持つ。『Mr.&Mrs. スミス』での共演をきっかけに結婚したアンジェリーナ・ジョリーとの私生活も注目を浴びたが、2016年に離婚している。

61 アウトサイダーたちへのラブレター

Interviewer What was it like working with Mr. Tarantino?

Leonardo DiCaprio There are few people in this world that have the collective knowledge about not only cinematic history but music and television... It's...it's almost like tapping into a computer database, and...and the wealth of knowledge is unfathomable, and it keeps coming and coming. So, in a way, I really think this movie is his love story to the...to his industry.

And he's put at the helm of it two, kind of, characters that are... that are outsiders. The '60s have come along, and this industry has, sort of, passed them by. But I think we all...all of us at this table at one time felt like outsiders i...in the industry. And...and it's really a love letter to the industry and those people that he appreciates, I think—all these actors whose work that he really appreciates from an artistic

What is it like...?:
～はどのような感じですか

collective:
総合的な、まとまった
cinematic:
映画の、シネマの
tap into:
(情報・資源などにアクセスして)うまく利用する、活用する
a wealth of:
大量の、豊富な
unfathomable:
計り知れない、底なしの
in a way:
①ある意味で ②ある点で

put A at the helm of B:
AをBの中心的役割を担わせる
outsider:
アウトサイダー、はみ出し者
come along:
現れる、やってくる
pass...by:
...を置き去りにする、取り残す
appreciate:
～のよさを認める、評価する
from an artistic perspective:
芸術的観点から

インタビュアー タランティーノ氏と仕事をなさっていかがでしたか。

レオナルド・ディカプリオ 映画の歴史だけでなく、音楽とテレビまで、(彼ほど)総合的な知識を持っている人はこの世界にそうたくさんはいないよ。コンピューターのデータベースを利用しているようなものだね。その知識量たるや底なしで、次から次へと出てくるんだ。だからある意味、この映画は監督のラブストーリーとっていいと思う、この(映画)業界に対してのね。

監督が物語の中心に据えたのは、2人の、いわばアウトサイダーであるキャラクターだ。1960年代が到来し、業界は、何とというか、2人を置き去りにしてしまった。まあ、たぶん僕たちみんな……このテーブルについている人間はみんな、一時期は業界のアウトサイダーのように感じていたんじゃないかな。とにかく、これはまさしくラブレターだと思う、この業界と、それから、監督が称賛してやまない人たちへ